

観光

池島炭鉱体験施設の在り方

問 施設の現状と今後の在り方について市の見解を伺いたい。

答 本施設は、観光だけではなく、地元雇用の創出などにも寄与する重要な施設であるが、坑内案内ガイドの後継者育成や老朽化に伴う維持管理についての課題がある。これらの課題への対応と施設の在り方については、今後の池島の方向性や動向を総合的に見据え、指定管理者や地元と協議し、課題等を整理しながら、今年度を目途に解決に向けた検討を行うとともに、DMOとも連携し、情報発信等の取組を進めていきたい。

DMO：多様な関係者と協同しながら、観光地域づくりを行うかじ取り役となる法人。



▲池島炭鉱トロッコ電車

自民創生

市有財産

小中学校統廃合後の跡地活用

問 現在、使われていない跡地はどの程度あるのか。また、どのように利活用を進めていくのか。

答 統廃合後、利活用が決定していない跡地は一時的に貸し付けているものを含め12か所、敷地面積にして延べ約12万6千平方メートルになっている。行政での活用が困難な資産は、民間での活用について公募型プロポーザルやサウンディングなどの手法で、売却を含めた検討を行っている。これまた、地域住民の意見を伺いながら公園整備や道路の拡幅を行った事例もあり、そのような事例を参考にしつつ、有効的な利活用に努めていきたい。



経済

屋台村、さかな市場の推進

問 飲食を通じてのにぎわいの創出の仕掛けやまちなかへの回遊の拠点となる屋台村やさかな市場を推進していく考えはないか。

答 今年3月にJ-R長崎駅にオープンした長崎街道かもめ市場では、企画段階から長崎の食を意識したコンセプトを事業者と共有することができ、長崎の魚にこだわった店舗が設けられ、魅力発信に大きくつながっていると考えている。屋台村やさかな市場の推進は、交流人口の拡大や経済の活性化の有効なコンテンツとなり得ると考えており、今後も事業者の動向を注視しながら、関係機関とも連携を図って推進していく。



まちづくり

県庁舎跡地の活用

問 県において県庁舎跡地活用の整備基本構想が策定されたが、今後の整備の進め方と本市の関わり方を伺いたい。

答 跡地においては、にぎわいの場などとして利用できる広場や県の魅力を体験できる情報発信機能、多様な交流を促進する交流支援機能などを備えた整備が予定されている。今後は、令和4年度から5年度にかけて、基礎的な工事を先行して実施し、石垣上や第一別館跡地等のオープンスペースを暫定供用し、利用状況を検証して令和6年度以降の設計・整備を検討することとされている。本市としても、新たなにぎわいの創出や交流人口拡大につながるよう、県と協議を重ねていく。



▲県庁舎跡地の敷地南側の石垣の遠景

子育て

医療的ケア児とその家族に対する支援

問 小中学校や保育所等における医療的ケア児の受入状況と今後の支援の考え方を伺いたい。

答 現在、保育所・認定こども園では、4施設で5名の医療的ケア児を受け入れており、専任看護師を雇用する施設に對して補助を行っている。市立小中学校には、医療ケアを必要とする児童生徒が十数名在籍しており、その全てに看護師資格を有する特別支援教育支援員を配置している。そのほか、福祉サービスとしては、一時的に在宅生活が困難となった場合に医療的ケア児を受け入れる短期入所施設の整備などを図っていく。今後も、対象者の実態やニーズ等を把握し、県とも連携して支援の拡充に努めていく。